



会員寄稿

# 水郷地帯に生まれ育って —最近の水害に思うこと—

中日本建設コンサルタント株式会社／大阪支社長 梶井源一郎



## 1. はじめに

名古屋本社の中日本建設コンサルタント株式会社に入社して40年近くが経ちました。ずっと本社で過ごしこのまま退職かと思っていた矢先、2年前に大阪支社に異動となりました。

大阪に来てみると、歩道を歩けばインバウンドの関係かやたらと外国人が多く、エスカレーターは右側に並ぶことになっているし(なぜ大阪だけ逆?)、梅田地下街は複雑だし、などで戸惑いが多かったのですが、最近やっとなれ、落ち着いて仕事ができるようになりました。ちなみに事務所のある谷町四丁目界隈はカレー店の激戦区のようにいろいろな店があることを知り、昼時が密かな楽しみになっています。

最近、毎年のようにニュースで頻発する豪雨による被害が報道されています。私どもの主要な業務である雨水排水、浸水防除に関わっている技術者としては、複雑な思いで豪雨被害のニュースを聞いています。

かく言う私は、岐阜県の南端に位置する海津市の輪中で囲まれた場所に住んでいます。海津市は昔から木曾三川が集まる水郷地帯で、昔から河川の氾濫に悩まされていたところでした。幸いにして今では治水工事も完了しており、ここに住む私たちは水害の被害なく安心して暮らすことができます。

今回、水郷地帯にすむ住民から見た、最近の水害についての思いを述べたいと思います。

## 2. 木曾三川の治水の歴史

私の住む海津市は、伊勢湾にそそぐ木曾三川(木曾川、



図-1 木曾三川の状況 (Googole Earthより)

長良川、揖斐川)に挟まれています。

これらの河川は、古くは網目状に流れており水害に悩む住民が集落や耕地を被害から守るため、自らの手でその地域を囲むように輪中堤防を築きました。

それでも洪水は頻発しており、この対策に一大工事として江戸時代に「宝暦治水」(1754~1755)が行われました。これは、幕府の命により薩摩藩が行った治水工事であり、木曾川、長良川、揖斐川を分流する工事でした。

この工事は困難を極め、多くの死者と多額の費用(約40万両)の末に完成しました。当時の薩摩藩総奉行である平田鞞負は責任を取り自害しました。その後、明治に入り近代土木技術を用いた本格的治水工事が、ヨハネ・デ・レーケ指導の下に進められ、現在の河川形態が完成し、これにより洪水被害は激減しました。

平田町という地名は比較的多いと思いますが、私の住む平田町は、平野で平坦から来たわけではなく、この町の恩人である薩摩藩奉行平田鞞負が命名元です。私の地区には平田鞞負の像が建立されており、毎年慰霊祭が行われます。



図-2 地元に立つ薩摩藩奉行平田鞞負像

海津市内には、薩摩藩士殉職者を「祭神」とした治水神社も建立されています。

このように、地元では治水に関する過去の歴史が生活に密着した形になっています。

## 3. 最近の豪雨水害に思うこと

最近、耳に慣れてしまった異常気象が原因なのか、私が若い頃に5年確率で50mm/時などと雨水計画をして

いたことと比べ、ニュースで80mmや100mm/時を超える豪雨などを頻繁に聞くと違和感を覚えてしまいます。

洪水や浸水の根本対策は、個人の対応でどうなるものではなく、国や自治体が河川や雨水計画のもとに、順次工事を進めていくしか方法はなく、多額な費用と長い時間がかかるのが現実です。ここでは、技術的なこととは別として、住民の視点で考えてみます。

私の経験から述べると、まず自分の家の周りに興味を持ち、いろいろ調べてみるのが第一歩だと思います。土地の成り立ちや周辺の地形などについて地元で古くから住んでいる人の話を聞くことは何かヒントが得られるのではないのでしょうか。周りにつながることも大切です。

私の家の周りを見てみると

- ①昔から住んでいる家は、少しでも高い地区を選び、さらに盛土でかさ上げしています。  
(我家の敷地は、周りから2mほど盛土されており石垣で囲まれています。周りに木が生い茂っており管理が大変です。)
- ②昔の家は、敷地内のさらに高い場所に水屋という避難用建物を建てていました。  
(今ではほとんど見られなくなりました。)



図-3 地元にある水屋

- ③地区の近くの輪中堤防は、その地区住民が草刈りをしたりして維持管理に努めています。  
(堤防斜面の草刈りは結構重労働です。)



図-4 我家近くの輪中堤防

- ④市で住民による水防団を組織しています。  
(幸い、私は入らずに済んでいます。)

豪雨の後は、水路の水かさはどうだとか長良川の水位が結構上がっているとか、地元皆さんは浸水に関する事に意識を持って暮らしている気がします。これらは、昔から水害と戦ってきた先人たちの知恵と努力が引き継いでいるのでしょう。

水害の話と少しずれますが、私の地元では全国の傾向以上に人口減少と高齢化が進んでいます。周りを見ると高齢の夫婦二人暮らしが多くなってきました(我家も同様です)。

この中で、周囲の道路や水路などのインフラ施設劣化が進んでいますが、市の財政難と相まって、市からの補修はなかなか期待できない状況にあります。最近では、「補助金を出すから地元のことは地元で解決しろ。」といった方針が出始めました。

わが地区は農村ですので、農林水産省事業で農用地やその設備の維持・補修に補助金が出る「多面的機能支払い交付金」という制度を受け、地元の水路や農道の斜面などの簡単な修理は、業者の手助けも受けながら自分たちで行っています。これを高齢者のみで行うため、しんどいですが地元を守るという意識もあり、結構楽しく行っています。



図-5 農道の法面修理状況(地元のみんなで作業)

#### 4. おわりに

豪雨災害の防止は、我々建設コンサルタントが自治体などと連携して知恵を出し合い、また、住民の理解を得ながら進めていくことが重要です。それに合わせて、私たち住民も自分たちの地区は自分たちが守るという意識を持ち、できることを行動することが大切だと思います。

輪中に住む我が家は、もともと農家なので、家の前にある田んぼの一区画で素人ながら稲作をしています。パイプラインが敷設されておりコックをひねるだけで水管理ができるため、昼間不在の私でも何とか米ができるのです。今年も災害がないことを祈り、豊作になることを期待しながら毎日を暮らしています。